

2 特別支援教育

指導の重点

一人一人の教育的ニーズに応じた指導

教育的ニーズとは、児童生徒一人一人の障害の状態や特性及び心身の発達の段階等を把握して、具体的などのような特別な指導内容や教育上の合理的配慮を含む支援の内容が必要とされるかということを検討することで整理されるものです。それを踏まえて一人一人の教育的ニーズに応じた指導を充実させるためには、全ての教職員が特別支援教育の目的や意義について十分に理解して指導することが重要です。

通常の学級における個々の児童生徒の困難さに応じた指導の工夫

各教科等の学習指導要領解説には、個々の児童生徒によって、読み書きや計算等の困難さや心理的な不安定、注意の集中を持続することが苦手等の学習活動を行う場合に生じる困難さが異なることに留意し、困難さに応じて指導内容や指導方法を工夫することが示されています。授業づくりの際には、各教科等の目標や内容の趣旨、学習活動のねらいを踏まえるとともに、児童生徒の困難さによる学習や心理面への負担に配慮することが大切です。

小学校道徳科 困難さの状態に対する指導上の工夫の意図と手立て

他者との社会的関係の形成に困難がある児童の場合であれば、相手の気持ちを想像することが苦手や字義通りの解釈をしてしまうことがあることや、暗黙のルールや一般的な常識が理解できないことがあることなど困難さの状況を十分に理解した上で、例えば、他者の心情を理解するために、役割を交代して動作化、劇化したり、ルールを明文化したりするなど、学習過程において想定される困難さとそれに対する指導上の工夫が必要である。『小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編』 p113-114

動作化を手掛かりに他者の考えや心情に触れる展開例

小学校第2学年 主題名「素直に伸び伸びと」(A-2 正直、誠実)
教材名「お月さまとコロ」(「わたしたちの道徳 小学校1・2年」文部科学省)

◇本時のねらい 素直になりたいけれどなれない思いや、素直になれた時の思いを考えるを通して、素直に謝ろうとする態度を育てる。

〈前半のあらすじ〉 ココロのゴロは、怒ったり文句を言ったりして素直になれずにいた。ある日、楽しい歌を教えてくれたコオロギのゴロに、「おもしろくない。気持ちわるくなるよ。」と言ってしまふ。怒って帰ってしまったゴロにコロは謝れず、「謝る」「謝らない」という二つの心でたたかっていた。現れたお月様から優しく話し掛けられ、コロは涙を流す。

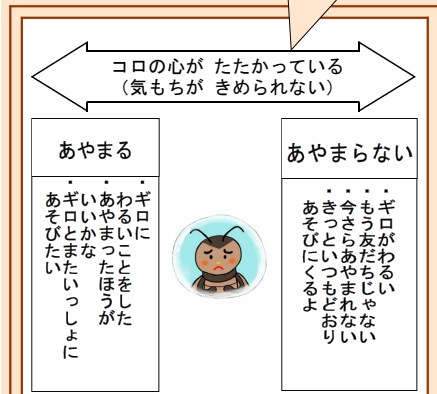
学習活動の一部(◎は主な発問例)

「お月様とコロ」を読んで話し合い、素直になることのよさについて考える。

◎二つの心がたたかっている時のコロは、どんなことを思っていたのでしょうか。

★「心がたたかう」という比喻表現を理解しやすいように、「気持ちが決められない」という注釈や対象児童がイメージしやすい絵等を示します。

【板書例】



◎お月様に話し掛けられ、今までとは違う顔になったコロは、これからどうすると思いますか。

★は教育上特別の支援を必要とする児童への手立て

・ゴロが怒った経緯とゴロを怒らせたコロの気持ちが考えられるよう、ペアで役割を交代して動作化する場面を設定する。

コロの役をやった時に、どんなことを思いましたか。

・自分が考えたコロの気持ちが「謝る」「謝らない」のどちらに近いかを尋ねながら、板書する。

★児童の発言を文章化し対比的に表すことで、気持ちが葛藤する場面でも多くの考えに触れることができるようにします。

先にゴロが怒ったので、ぼくも怒りました。ゴロが悪いので、謝らなくてもいいと思いました。

S1 ぼくは、ゴロが悪いことをしたと思いました。謝るかどうか迷ったけれど、謝ろうと思いました。

S2 私は最初、どうしようと思ったけれど、ゴロとまた一緒に遊びたいから、謝りたいと思うようになりました。

あれ、謝りたいと思ったのか。なんでだろう。

二つの心の間には、いろいろな気持ちがありそうですね。コロの本当の気持ちはどうだったと思いますか。

★場面絵(暗く沈んだ悲しそうな顔のコロ)を提示し、どんな表情をしているか問い掛け、謝ることのできないコロの気持ちを考えることができますようにします。

場面絵のコロは悲しそうな顔をしています。本当は、悲しい気持ちだと思います。

S3 ぼくは、コロは本当は謝って仲直りしたいけれど謝れなくて、悲しい顔をしていると思いました。

・コロの本当の気持ちが分かるように、再度、コロの口調や表情等を考えて動作化する場面を設定する。

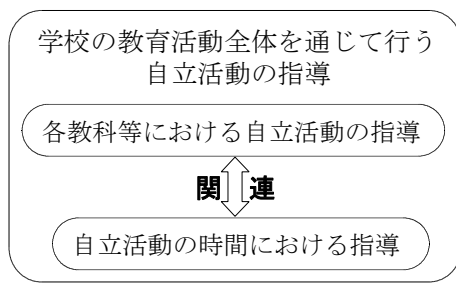
そうか、本当は謝って仲直りしたいのかもしれない。

ロールプレイ等を通して動作化を取り入れたり、表情やしぐさ等の視覚的な手立てを準備したりして、相手の気持ちを理解できるようにすることで、他者の考えや心情について学びやすくします。

自立活動と各教科等との関連を意識した授業づくり

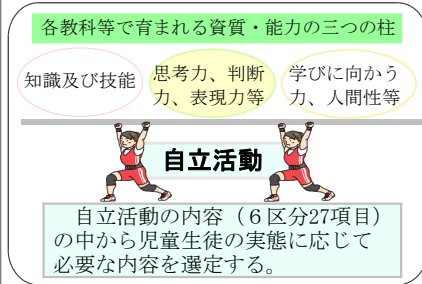
小学校及び中学校学習指導要領総則には、特別支援学級において実施する特別の教育課程について、「障害による学習上又は生活上の困難を克服し自立を図るため、特別支援学校小学部・中学部学習指導要領第7章に示す自立活動を取り入れること」が明示されています。自立活動の指導は、授業時間を特設して行う指導はもとより、学校の教育活動全体を通じて行うものとされており、各教科等の指導においても自立活動の指導と密接な関連を保つことが大切です。〈図1〉
 障害のある児童生徒は、その障害によって各教科等において育まれる資質・能力の育成につまずきが生じやすいことが考えられます。そのため、個々の実態から必要な内容を選定して行う自立活動の指導が、各教科等において育まれる資質・能力を支える役割を担っています。〈図2〉

〈図1〉自立活動の指導の概念図



個別の指導計画の作成に当たっては、各教科等と自立活動の指導内容との関連を図り、両者が補い合って効果的な指導が行われるように配慮する必要があります。そのため、自立活動の指導は特別支援学級の担任だけではなく、児童生徒に関わる全ての教職員の協力の下、連携して進めていくことが大切です。

〈図2〉自立活動の意義と位置付け



交流及び共同学習において、自立活動と各教科等に関連させた学習の例

小学校第5学年 体育 単元名 ネット型ゲーム「ソフトバレーボール」

- ◇本時の学習 5年生（交流学級）30名で学習を展開（本時2／8）
- ◇児童Nの実態
 - ・特別支援学級（自閉症・情緒障害）在籍。運動が好きで進んで体を動かしている。
 - ・自分の得意不得意の理解が不十分だったり、困った状況を人に伝えたりすることが苦手で、うまくできない時に気持ちが落ち込んでしまうときがある。自己理解を深め、場面や状況に応じたコミュニケーションがとれることを自立活動の目標としている。
- ◇児童Nのねらい
 - ・味方が受けやすいよう、パスをつなぐことができる。【知識・技能】
 - ・作戦タイムの場面で、自分の受けやすいボールの高さを友達に伝えることができる。（自立活動）人間関係の形成(3) コミュニケーション(5)

★は児童Nの自立活動のねらい達成のための手立て

学習活動

- めあての確認
- 準備運動
 - ・ゲームにつながる運動
- ラリーゲームⅠ
- 作戦タイム
 - ①ラリーが続くコツ
 - ②試してみよう
- ラリーゲームⅡ
- 振り返り

連動

自立活動の時間における指導

『自分図鑑』

- ・自分の得意なこと
- ・自分の苦手なこと
- ・うまくいく方法
- ・相談の仕方

変容

交流及び共同学習の充実（教科等の学び）

学習上又は生活上の困難が考えられる場面において、自立活動の時間に学習した方法を活用できるよう、支援します。

なかなかラリーが続きませんね。ラリーを続けるためには相手にどんなボールをパスすればよいか、考えてみましょう。

交流担任

ふわっとしたボールを上げないと、ラリーは続かないんじゃないかな。

優しいパスは取りやすいよね。

ぼくは低いボールや強いボールは取れないな。

★ラリーを続けることに自信がない様子の時は、自立活動で学習している「相談の仕方」を活用できないかを問い掛け、誰にどんな言い方で伝えたらよいかを一緒に考える。

★Nが友達に気持ちを伝えやすくなるよう、必要に応じて作戦タイムの際に声を掛け、発言を促す。

Nさんはどの高さでパスをもらいたいですか。

学級担任

ぼくは、高いボールは受けられるから、高いパスを上げてほしいな。

そうだね。Nさんは高いパスを受けるのは上手だったよ。

Nさんの身長よりも、高いところに上げるといいんだね。

何回続くかやってみようよ。

6回も続いたよ。ラリーが続くと盛り上がるね。

みんなとラリーが続いて嬉しい。困ったらまた相談してみよう。

Nさん

相談することはとてもいいことです。それもラリーが続くコツですね。

交流担任

各教科等における自立活動の指導に当たっては、各教科等の目標の達成を著しく損なったり、目標から逸脱したりすることのないように留意することが大切です。また、教育活動全体においても、自立活動の具体的な指導内容を意識し、各教科等の目標達成のための手立てや配慮点として自立活動との関連をもたせるなど、計画的、組織的に指導を行う必要があります。

児童生徒に関わる全ての教職員が自立活動の指導目標を共有し、児童生徒が努力している場面を適宜捉え、適切に評価することが大切です。そして、児童生徒自身も自分の自立活動の目標を自覚し、自立活動の時間に学んだことが他の場面でも“役に立った”と実感することができるように、児童生徒の実態に応じて自己評価をする場面を設定することも大切です。